

株式会社ショーワ

モノづくりのこだわりが生み出した製品の魅力

株式会社ショーワでは、カーポートや融雪機、雪止めフェンスを中心として製造を行っている。

見学会では、はじめに製品の紹介とモノづくりへのこだわりについて聞くことができた。

カーポートは、「家CAR天下（かかあてんか）」という面白い名前がついている。屋根にトラス構造が使われているもの、片持ちであるもの、屋根を透明にして2階からでも自分の車が見えるようになってくるものなど、独自のアイデアが製品となったものが多く、とても魅力を感じた。



ルーフシェルターと片持ちカーポート(株式会社ショーワホームページより引用)



融雪機も「融冬静（ゆうとうせい）」という面白い名前がついている。その名前のとおり、低燃費で高い融雪効率を持ち、さらに低騒音であることが特徴となっている。

雪止めフェンスは、屋根から落下する雪の軌道や衝撃を計算して、落雪のトラブルを防いでいるという。

工場見学で見た確かな技術力

工場ではボールの穴あけ、切断、溶接、曲げ、熱処理、これらをロボット化した機械がある。ボールの穴あけは、他のボールや柱を通す大きな穴となるため、溶断という手法を用いている。

この穴あけは元々外注していたが、受注料金が高騰したことをきっかけに、穴あけ用の切断装置を作れないか試行錯誤し、ロボットと溶断用の機械を組み合わせて自社で製作したものである。ロボットプログラムのプログラミングも自社で行っていた。



曲げ作業の風景(株式会社ショーワホームページより引用)

自分たちで製造過程をロボット化し、利益を生み出していることを聞いて、「必要なものは自分たちで作る」という考え方がとても面白く、モノづくりをしていく上で大切なことであると感じた。

を溶接していたことが一番印象に残っている。このような工夫は、顧客の安全を考えた素晴らしい技術である。

溶接や溶断は人の手で仮止めなどを行ってある部分もあるが、作業工程の多くは機械化されているため、機械が作業しているものが多かった。

機械にはプラズマとレーザーにより部品を切り離しているものがある。精度がそれほど重要でない部品はプラズマにより高速で切断し、精度が重要な部品はレーザー加工によりゆっくり丁寧に切り離しているなど、部品に求められる精度によって加工方法を変えていることが分かった。

曲げ工程では、曲げ職人が作業をしているところを見ることができた。機械を用いて金属を曲げることは他の工程に比べ難しく、通常は一人前になるまでに何年もかかるという。しかし、この会社では先輩社員がきちんと指導をし、なんと半年ほどで一人前になれるという。

曲げ工程でミスをしてしまうと、破断した金属破片が自分に飛んでくることがあり、最悪、死に至る場合も想定されるなど危険を伴ったため、高い技術力が必要とされること分かった。

独自の技術はどのように製品に活かされているのか

工場見学の中で見た技術力がどのように融雪機、雪止めフェンス、カーポートという製品に活かされているのかを見た。

融雪機は、ほかのメーカーの製品と違い、吸気部分に特徴がある。吸気口を融雪機の上につけるという特許を取得した技術を用いて、低燃費で高い融雪効率を誇る製品を完成させている。

吸気部分の説明を聞いて、工場内の作業工程を見た、「できることは他を頼らずに自分たちで何とかして作り上げよう」という想いと確かな技術から生まれた製品であることが伝わってきた。

雪止めフェンスの見学では、曲げ工程で作成した部品が使われている。

このフェンスは、三角形に曲げられた部品とボルトを組み合わせて簡単に取り付け、取り外しができるように作られている。基礎石で柱をしっかりと立てれば、可動式ブラケットは障害物を回避したりなど高さを自分で変えられるように、また、夏場にはブラケ



ロボットによる溶接(株式会社ショーワホームページより引用)



雪止めフェンスと融雪機(株式会社ショーワホームページより引用)



ットを撤去することもできるように作られているところから、顧客のことを考えた素晴らしい商品であると思った。

交流会から学ぶモノづくり

交流会では、モノづくりへのこだわり、モノづくりの面白さを知ることができた。素晴らしい機会となった。

はじめにカーポートに関して、「片持ちのカーポートでは風による影響に対応できないのではないかと」と質問してみた。

この質問に対し社長さんは「おっしゃるとおりである」と言った。風があると雨や雪の影響を受けてしまう点に関しては仕方ないという。

しかし、片持ちカーポートの利点は柱が2本であることであり、4本の柱のカーポートより雪かきがしやすい。この雪かきのしやすさが、「このような製品があったら良いのに」という顧客の立場に立って、開発されたものの証なのだ。

カーポートは4本柱であるのが基本であるという認識に対して、2本柱でカーポートを作ろうという考えから、他社にはないものを作れることをモットーとしていることが分かる。

また、片持ちカーポートは一人の顧客が買ってくれば、それをみて口コミで連鎖的に周りの人に知ってもらえることができ、買ってもらえる人が増えることが多いという。



ルーフ展示場(株式会社ショーワホームページより引用)

このような社長さんのモノづくりに対する姿勢は、我々にとって良い刺激となった。社長さんは「できない」とは言わず、「どうしたらできるか」を考えるようにしており、従業員に対しても同じように「どうしたらできるのかを考えろ」と言い続けているそう。

その結果として、様々なアイデアから独特な製品が生み出され、特許や実用新案の取得に繋がっているのだと思った。社長さんは得られた利益は会社の製品開発のための資金や、従業員へ還元のために使うという。会社のため、従業員に頑張ってもらっためにこのようなことをするのは素晴らしいと思った。

今後、就職活動するときや、就職してからも、社長さんのモノづくりへのこだわり、面白さを思い出して働けるようになりたいと思った。

▼会社DATA▼

株式会社ショーワ

代表者名
代表取締役 山崎 三郎

住所
石狩市新港東2丁目4-8

電話番号
0133-62-5611

ホームページ
<http://www.showa33.com>

片持ちカーポート(株式会社ショーワホームページより引用)